



齋藤元希

株式会社スタイルエッジ

—パリの舞台で、力強く—

6種目に出場し、男子200m個人メドレーで8位、混合400mリレーでは、6位入賞を果たす。

8月28日(水)に開会した2024パリパラリンピック大会。齋藤元希選手が出場した競泳競技は、8月28日から9月7日の10日間の日程で行われました。

齋藤選手は、6種目に出場し、力強い泳ぎを見せ、大石田町に大きな興奮と感動を与えてくれました。大会の結果は左表のとおりです。

パラリンピックを振り返って齋藤選手にインタビューを行いました。日本新記録なども出ましたが、今大会や結果を振り返って、率直な感想をお願いします。

齋藤選手 — 結果は、厳しいものでした。特にバタフライ、400m自由形は、狙っていた成果を得られずかなり精神的なダメージが大きかったです。

一方で、200m個人メドレーは、やっとこのタイムが出せたという感じでした。やっと、この種目で世界と戦える切符を得た感覚です。チームにも喜んでもらえて最高の時間でした。

種目ごとにいろいろと思うところはありますが、もう一度やりたいかというところやりにたくないです。それぐらい精神的なダメージは大きかったです。楽しいとは思えました。

海外の選手との真剣勝負に対して、楽しく挑戦できました。

個人のみでなくキャプテンとしても挑んだパラリンピックでしたが、パリパラリンピックの舞台の空気が、景色はいかがでしたか？

齋藤選手 — 無観客の東京大会と比較してしまうととても悔しくなります。有観客のパラリンピックは、こんなにも歓声があるのか。思わずニヤけました。それぐらいパラスポーツが盛り上がるチャンスは日本は逃したのかなと泳ぐたびに思いました。

レース中や大会中、苦しい場面などもあったかと思いますが、どのようなことを考えていましたか？

齋藤選手 — とにかく考え無ないようにしました。次のレースをこなすだけだと言いつつ泳ぎました。

大会を終えて、大石田町やパラスポーツのさらなる盛り上がりにつ

いてメッセージをお願いします。

齋藤選手 — 応援ありがとうございます。普段、パラスポーツにふれる機会が少ないと思いますが、パラリンピックのオリンピックにはない魅力と強いメッセージがたくさんの方々に届いてくれたら嬉しいです。義足や車椅子、サポートなどで自分を自分でアップグレードすることで自分の可能性を広げられたり、何かに挑戦することになりたい自分に近づく事ができると思っています。そういったことが伝わってほしいです。

今後の目標や意気込みなどをお願いします。

齋藤選手 — パラリンピックへの挑戦は、まだ、続けます！

僕個人としては、よりよい成績を求めることが大前提ですが、町の方々は、その挑戦を一つのエンターテインメントとして楽しんで欲しいと思います。その中でパラスポーツに興味を持ってもらえるよう引き続きがんばります。

ます！

9月5日(木)には、パブリックビューイングを開催。

9月5日(木)には、パブリックビューイングが虹のプラザ「中会議室」で行われました。午前2時という時間にも関わらず、30名の方が齋藤選手を応援するため、集まりました。参加した柏倉孝志さん(やる気！元氣！齋藤元希の会長)は、「キャプテンとしての重圧もあったと思うが、よくやったと伝えたい。」と話していました。



▲パブリックビューイングの様子

齋藤選手が出場した種目とタイム、順位

試合日	種目	タイム	結果
8/29	男子100メートルバタフライ(視覚障害S13)	1:01.39	予選全体10位
8/30	男子100メートル背泳ぎ(視覚障害S13)	1:03.67	予選全体9位
8/31	男子400メートル自由形(視覚障害S13)	4:30.59	予選全体10位
9/3	男子200メートル個人メドレー(視覚障害SM13)	2:17.51	決勝全体8位入賞
9/5	男子100メートル平泳ぎ(視覚障害SB13)	1:11.73	予選全体11位
9/5	混合400メートルリレー(視覚障害)	4:07.52	決勝全体6位入賞